

県内の患者数

矢印は、前週の数に対して ↑増加 ↓減少 →横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↗ 640	576	百日咳	↘ 0	1
RSウイルス感染症	↗ 8	6	ヘルパンギーナ	↗ 12	7
咽頭結膜熱	→ 20	20	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	→ 44	44
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	→ 62	63	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↗ 531	404	流行性角結膜炎 (はやり目)	→ 11	10
水痘	↘ 58	86	細菌性髄膜炎	↗ 1	0
手足口病	↗ 1	0	無菌性髄膜炎	↘ 0	1
伝染性紅斑 (りんご病)	↘ 3	7	マイコプラズマ肺炎	↗ 5	1
突発性発しん	↗ 39	34	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い
感染症

- 🌟 インフルエンザ
- 🌟 感染性胃腸炎
- 🌟 A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

- インフルエンザは、報告数 640 件(前週報告数 576 件)と増加。地区別では、人吉、宇城、菊池に多く報告がみられる。年齢別では、10～14歳の101件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 感染性胃腸炎は、報告数 531 件(前週報告数 404 件)と増加。地区別では、有明、菊池、人吉に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の128件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、報告数 62 件(前週報告数 63 件)とほぼ同数。地区別では、人吉、八代、天草に多く報告がみられる。年齢別では、3歳の13件を最多に、主に10～14歳以下からの報告である。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	194	4	6	26	161	27	1	2	15	0	1	12		8	1			3
山鹿保健所	25	0	0	0	30	3	0	0	4	0	1	0	*	*				
菊池保健所	61	1	2	6	66	7	0	0	5	0	0	7		1				
阿蘇保健所	10	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
御船保健所	10	0	0	0	12	1	0	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	43	0	0	8	39	1	0	0	2	0	1	11						
水俣保健所	7	0	5	2	7	3	0	0	2	0	0	4	*	*				
人吉保健所	126	1	0	10	48	1	0	0	2	0	0	0	*	*				1
有明保健所	40	0	3	1	85	6	0	0	7	0	0	0		1				1
宇城保健所	83	0	3	2	44	3	0	1	2	0	0	3		1				
天草保健所	41	2	1	7	38	6	0	0	0	0	9	7						
計	640	8	20	62	531	58	1	3	39	0	12	44	0	11	1	0	5	0


◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5ヶ月	6～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上		
インフルエンザ	640	1	16	24	39	49	62	64	46	39	33	22	101	24	29	39	20	14	9	4	5		
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳以上								
RSウイルス感染症	8	2	4		1			1															
咽頭結膜熱	20	1		10	2	2	4			1													
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	62		1	3	2	13	6	10	4	6	5	2	8		2								
感染性胃腸炎	531	4	61	128	65	54	48	29	19	21	15	9	36	6	36								
水痘	58	2	3	14	9	9	6	5	4	3		2	1										
手足口病	1																						
伝染性紅斑	3		1	1			1																
突発性発しん	39	4	23	12																			
百日咳	0																						
ヘルパンギーナ	12			1	5	3	1	1					1										
流行性耳下腺炎	44			3	3	3	5	5	9	4	4	4	4										
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上			
急性出血性結膜炎	0																						
流行性角結膜炎	11														1	3	1	2	2			2	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上						
細菌性髄膜炎	1															1							
無菌性髄膜炎	0																						
マイコプラズマ肺炎	5		1	2	1	1																	
クラミジア肺炎	0																						

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

インフルエンザ：人吉
感染性胃腸炎：山鹿
流行性耳下腺炎：水俣

インフルエンザ



県全体のインフルエンザの患者報告数は、9週連続で減少していましたが、今週は増加に転じました。県全体では、警報レベルを脱していますが、地域ごとにとみると人吉地域は未だ警報レベルにあります。インフルエンザの診断情報では、約9割がB型となっています。今週は、4月に入り初めて、小学校や中学校から学年・学級閉鎖の報告があり、新学期が始まりインフルエンザが増加しているようです。昨年は、6月中旬まで学年・学級閉鎖がっており、今後もしばらくは注意が必要です。インフルエンザは、突然の高熱と寒気、頭痛、全身のだるさ、筋肉痛などの全身症状が特徴です。時には肺炎や脳症などを併発して重症になることもあります。予防には、①流行時には人混みを避ける②手洗い・うがいを習慣づける③栄養、休養、睡眠を十分に取る④部屋の換気と保湿に心がけるなどの対策を行いましょう。もし、インフルエンザにかかってしまった場合は、学校や職場へは無理して行かず、早めに医療機関を受診し治療を受けましょう。また、周りの人へうつさないために、咳エチケットを心がけ、外出を控えるようにしましょう。